

経歴／研究業績

庄谷怜子

庄谷 怜子 教授 経歴

<学 歴>

- | | |
|-----------|-------------------------|
| 昭和34年 3 月 | 京都大学文学部史学科卒業 |
| 昭和36年 3 月 | 京都大学大学院文学研究科修士課程修了 |
| 昭和39年 3 月 | 京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得・退学 |
| 昭和36年 3 月 | 文学修士（京都大学） |

<職 歴>

- | | |
|------------|---|
| 昭和39年 4 月 | 京都大学大学院文学研究科研修生（昭和40年11月まで） |
| 昭和40年12月 | 大阪社会事業短期大学助手 |
| 昭和44年 4 月 | 京都大学法学部内地研修員（昭和45年 3 月まで） |
| 昭和46年11月 | 大阪社会事業短期大学講師（社会福祉制度論） |
| 昭和48年11月 | 大阪社会事業短期大学助教授（社会福祉制度論） |
| 昭和52年 9 月 | 西ドイツ連邦共和国カッセル総合大学在外研究員
（昭和53年 6 月まで） |
| 昭和55年 2 月 | 大阪社会事業短期大学教授（公的扶助論、生活構造論、社会
事業史） |
| 昭和56年 4 月 | 大阪府立大学社会福祉学部教授（公的扶助論、生活構造論） |
| 昭和62年 8 月 | 大阪府立大学評議員（平成 3 年 7 月まで） |
| 平成 2 年 4 月 | 大阪府立大学大学院社会福祉学研究科修士課程教授 |
| 平成 5 年 4 月 | 大阪府立大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程教授 |
| 平成 8 年 3 月 | 大阪府立大学 定年退職 |
| 平成 8 年 4 月 | 大阪府立大学名誉教授 |
| 平成 8 年 4 月 | 神戸女子大学文学部教授 |
| 平成15年 3 月 | 神戸女子大学 定年退職 |
| 平成15年 4 月 | 神戸女子大学名誉教授 |

庄谷 怜子 教授 研究業績目録

<著 書>

1. 『大阪府方面委員、民生委員制度50年史』第1部第3章第1節（分担執筆）
大阪府民生局委託、1969年
2. 浦辺史、岡村重夫、木村武夫、孝橋正一編『社会福祉要覧』第16章（分担執筆）ミネルヴァ、1975年
3. 坂寄俊雄、右田紀久恵編『児童と社会保障』「貧困と児童」（共同執筆）法律文化社、1980年
4. 柴田悦子編『現代社会と婦人』「西陣機業に働く婦人の生活と課題」（分担執筆）大月書店、1981年
5. 佐藤進、右田紀久恵編『講座社会保障 6巻 社会福祉の法と財政』6章2（分担執筆）有斐閣、1982年
6. 阿部志郎、右田紀久恵、永田幹夫、三浦文夫編『地域福祉教室』第10章（分担執筆）有斐閣、1984年
7. 『滋賀県市町村職員のくらしと共済組合』前史1章、本史1章（分担執筆）
滋賀県市町村職員共済史編纂委員会、1984年
8. 女性史総合研究会編『日本女性生活史』5巻 現代「母子世帯の貧困」（分担執筆）東大出版、1990年
9. 『現代の貧困の諸相と公的扶助』（単著）啓文社、1996年
10. 『高齢在日韓国・朝鮮人—大阪における「在日」の生活構造と高齢福祉の課題—』（中山徹と共著）御茶の水書房、1997年（文部省科研費出版助成、代表庄谷怜子）
11. 『社会保障法』（社会保障法学会誌13号）共通論題：災害と社会保障「大規模災害と公的扶助—雇用・営業・生活基盤の崩壊と生活保護」（分担執筆）法律文化社、1998年
12. 『アジアの労働と生活』（社会政策学会年報42号）「名古屋笹島における野宿者の生活と政策課題」（分担執筆）御茶の水書房、1998年

13. 相野谷安孝、小川政亮、垣内国光、河合克義、眞田是編『2000年 日本の福祉：論点と課題』「ホームレスをめぐる問題」（分担執筆）大月書店、1999年
14. 『日雇労働者・ホームレスと現代の日本』（社会政策学会誌 第1号 通巻43号）共通論題：「日雇労働者・ホームレスと現代の日本：座長まとめ」（分担執筆）御茶の水書房、1999年
15. 阿部志郎・井岡勉編『社会福祉の国際比較－研究の視点・方法と検証－』「社会福祉の日独比較」（分担執筆）有斐閣、2000年
16. 布川日佐史編著『雇用政策と公的扶助の交錯－日独比較：公的扶助における稼働能力の活用を中心に－』「（9章）ドイツにおける貧困と社会福祉行政の実態」（分担執筆）御茶の水書房、2002年（文部省科研費出版助成、代表布川日佐史）
17. 片倉比佐子編『日本家族史論集10教育と扶養』藤原怜子「明治前半期における「家」制度－扶養法を通して－」（分担執筆）吉川弘文館、2003年
18. 小玉徹、中村健吾、都留民子、平川茂編著『欧米のホームレス問題－実態と政策－』上巻「第Ⅲ編 ドイツ はじめに」法律文化社、2003年（厚生労働省科学研究費補助金、H13－政策－012による）

＜ 論 文 ＞

1. 藤原怜子「明治前半期における「家」制度－扶養法を通じて」『日本史研究』63号、1962年
2. 藤原怜子「法体制再編期における「家」制度と勤労者の家族－特別法と判例を通して」『史林』1964年3月号、1964年
3. 「農村家内労働者と公的扶助－農村における貧困の一形態－」『社会問題研究』16巻3、4号合併号、1966年
4. 「機業兼業地域における農家経済と生活」『農政研究資料』701号、1967年
5. 「農村の生活と婦人の諸問題」『京都農政情報』5巻22号、1967年
6. 「国有林労働者の生活保護集団申請について」『社会問題研究』17巻3、4

号合併号、1968年

7. 「生活保護の要否判定の取り扱いについて」『社会問題研究』18巻4号、1969年
8. 「都市自営業者層の「家」と社会保障－西陣機業世帯の調査を中心に」『社会問題研究』20巻1、2、3号合併号（分担執筆）1970年
9. 「農村におけるシビルミニマム設定の方法的検討」『社会問題研究』22巻3、4号合併号、1973年
10. 「農村社会としてのシビルミニマムに関する研究」『現地適応技術確立強化実験研究』京都府農林部（分担執筆）1973年
11. 「内職をする被保護者の生活実態と問題点」『社会問題研究』24巻1、2号合併号、1974年
12. 「生活基盤としての住居と住宅扶助基準－農村被保護世帯の実態を通して」『社会問題研究』25巻合併号、1975年
13. 「被保護層の生活実態と保障水準－大阪府吹田市における生活実態調査を通して」『社会問題研究』26巻合併号、1976年
14. 「西ドイツ社会扶助法における「資産の活用」について」『社会問題研究』27巻合併号、1977年
15. 「Sozialreform in Meiji-Japan und in Wilhelminischen Deutschland」『Zeitschrift für Sozialreform』24巻9、10号合併号（F. Tennstedt と共同執筆）1978年
16. 「西ドイツにおける老人の貧困問題」『社会問題研究』28巻3、4号合併号、1978年
17. 「日本農業の父パウル・マイエットの業績」『月刊農業共済』31巻1号、1979年
18. 「西ドイツにおける貧困の一形態－Obdachloseの現状と意義Ⅰ」『社会問題研究』29巻1、2号合併号、1979年
19. 「西ドイツにおける貧困の一形態－Obdachloseの現状と意義Ⅱ」『社会問題研究』29巻4号、1980年

20. 「西ドイツにおける社会福祉職の教育養成と資格制度」『社会問題研究』30巻2、3、4号合併号、1980年
21. 「在宅重度障害者の生活問題と福祉課題－介護サービスを中心に」『社会問題研究』31巻2、3、4号合併号、1982年
22. 「父子家庭問題についての覚え書」『社会問題研究』32巻2号、1982年
23. 「児童をめぐる生活問題と施設社会化の意義」『社会問題研究』33巻1号、1983年
24. 「生活保護世帯における住宅問題と資産のミニマム」『社会問題研究』34巻1号、1984年
25. 「家族の危機と福祉の課題」『社会問題研究』34巻2号、1985年
26. 「家族の危機と社会福祉の課題」『賃金と社会保障』921号、1985年
27. 「公的扶助・社会福祉における家族と個人」『社会保障法』1号、日本社会保障法学会、1986年
28. 「公的扶助の現状と課題」『法律時報』59巻1号、1987年
29. 「あいりん地区（釜ヶ崎）日雇労働者の高齢化と生活問題」『社会問題研究』38巻1号、1988年
30. 「「資産」をめぐるわが国保護行政への疑問－ドイツ社会扶助法判例にてらして」『社会問題研究』41巻1、2号合併号、1991年
31. 「ドイツ連邦共和国における外国人に対する社会扶助」『社会問題研究』42巻2号（分担執筆）1993年
32. 「ドイツ連邦共和国における外国人に対する社会扶助・完」『社会問題研究』43巻1号（分担執筆）1993年
33. 「大阪における「在日」形成史と階層分化－高齢期にある在日韓国・朝鮮人一世の生活史調査より－」『社会問題研究』43巻2号、1994年
34. 「ドイツにおける戦後の貧困と社会扶助」『社会保障－資料と解説－』94年7月号、1994年
35. 「在日外国人と社会保障」『賃金と社会保障』1139号、1994年
36. 「公的扶助からみた生きる権利－ドイツの場合を参照しつつ－」『社会保障－

資料と解説一』94年11月号、1994年

37. 翻訳、ドイツ社会福祉法研究会「40年間の貧困政策と公的扶助（ドイツ）」（共同執筆）『社会問題研究』44巻1号、1994年
38. 「大阪における在日韓国・朝鮮人の階層構成と生活保護－高齢期にある「在日」一世の生活調査より」『社会問題研究』44巻2号、1995年
39. 「ドイツ社会扶助法における就労扶助」『社会問題研究』45巻1号（分担執筆）1995年
40. 「ホームレスと生活保護」『社会問題研究』45巻2号、1996年
41. 「野宿者が社会的困難を克服するための援助－Hilfe zur Selbsthilfe（自助のための扶助）」『神戸女子大学社会福祉学研究』第6号、2002年
42. 「ドイツにおける社会的排除への対策」、特集：社会的排除－概念と各国の動き－『海外社会保障研究』第141号、2002年

<調 査>

年次、調査名（調査主体が庄谷ゼミ調査の場合は略す）、『調査報告書名』

1965年 丹後機業地調査（京都府農林部農業指導課）

1967年 （第一次）西陣調査（京都女性問題研究会）、『西陣機業主婦の労働と生活』

1968年 大阪府社会福祉施設調査（大阪府）、『社会福祉行政基礎調査報告書』

1968年 （第二次）西陣調査（京都女性問題研究会）、（文部省科研費、個人研究）

1971年 高島機業主婦調査、『高島機業主婦の労働と生活』

1972年 和歌山県山村調査、『人口流出地域における住民の生活と福祉』（文部省科研費研究代表者右田紀久恵）

1973年 （第一次）南山城村調査（京都府農林部農業指導課）、『現地適応技術確立強化実験研究報告書－農村社会としてのシビルミニマムに関する研究－』

1973年 東大阪市被保護世帯の内職調査

- 1974年 京北町被保護世帯調査、『山村過疎地における住民の生活と社会福祉－
京都府北桑田郡京北町住民生活実態調査－』
- 1975年 吹田市被保護世帯調査、『被保護世帯の家計と生活』
- 1976年 門真市における母子世帯調査、『門真市における母子世帯の生活と福
祉』
- 1979年 京都市下京区「住所不定者」事例調査
- 1979年 （第三次）西陣調査、『西陣機業地における低所得層の生活と福祉』
- 1981年 父子家庭実態調査（父子問題研究会）、『大阪府父子家庭実態調査報告
書』
- 1982年 大津市在宅重度障害者調査、『在宅重度障害者の生活と福祉』
- 1983年 乳児院の地域相談事例の調査
- 1985年 （第二次）南山城村調査、『むらのくらしと福祉－高度成長期から低
成長期へ－京都府相楽郡南山城村生活実態調査報告』
- 1986年 東大阪市被保護母子世帯調査、『東大阪市母子世帯生活実態調査報告
書』
- 1987年 （第一次）釜が崎調査、『釜が崎労働者の労働と生活 1987』
- 1988年 （第二次）釜が崎調査、『釜が崎労働者の労働と生活 1988』
- 1989年 （第三次）釜が崎調査、『釜が崎労働者の労働と生活 1989』
- 1990年 寿町日雇労働者の老後生活調査、『寿町労働者の老後生活と福祉』
- 1991年 （第一次）大阪生野区における在日韓国・朝鮮人の労働と生活調査、
『大阪生野区における在日韓国・朝鮮人の生活と福祉』
- 1992年 （第二次）大阪東成区における高齢在日韓国・朝鮮人の生活調査
- 1993年 （第三次）大阪生野区における高齢在日韓国・朝鮮人の生活調査、
『大阪市生野区における在日韓国・朝鮮人の生活と福祉』
- 1994年 「在日」高齢者のくらしと意見を聞くアンケート調査
（以上文部省科研費 1992～4年、研究代表者庄谷怜子）
科学研究費補助金研究成果報告書『大都市のエスニック・コミュニテ
ィにおける生活構造と福祉の課題』

- 1994年 名古屋〈笹島〉野宿者聞き取り調査、『名古屋〈笹島〉野宿者聞き取り報告書』（〈笹島〉の現状を明らかにする会）
- 1996年 『在日外国人高齢者保健福祉サービス利用状況等調査』大阪府福祉部保健福祉室・大阪府立大学：社会福祉調査研究会（庄谷・中山）1997年
- 1997年 名古屋〈笹島〉野宿者第2次聞き取り調査、（庄谷、上畑、藤井、笹木、大阪府大院生2名、神女大生2年（1期生）10名参加、『名古屋〈笹島〉野宿者第2次聞き取り報告書—生活史・生活構造—』（名古屋の更生施設を中心に）
- 1998～99年 神戸における野宿者聞きとり調査、大阪府大院生とともに神女大（1、2期生）参加
- 1999年 名古屋〈笹島〉野宿者聞き取り調査、『1999名古屋野宿者聞き取り報告書（速報版）』（笹島問題を考える会）
- 1999年 1998年からの大阪市の野宿生活者（ホームレス）聞き取り調査に神女大ゼミ生（主として2期生）と参加
- 2000年 神戸長田における「在日」韓国・朝鮮人高齢者の被災後の生活と介護保険についての調査、大阪府大中山ゼミ、大学院生と神女大（3、4期ゼミ生）が参加し、中間報告
- 2001年 2001年 大阪府の委託を受けた（大阪府大 都市福祉研究会）の府下における野宿生活者調査に諸大学の学生と共に神女大（主に2、3期生）も参加
- 2003年 国による尼崎の野宿者聞き取り調査、神女大（2、3、4、5、6期生）も参加